

## 児島弘一郎氏を悼む

矢 島 直 子

(外国語第一部門主任)

児島さんには本当に気の毒な事をしたと思います。まだお若い方だったのに頼りがいがあったからでしょう、何かと仕事を託されて忙しい思いをしておられたようです。また、同僚の中には児島さんに話を聞いてもらった人がいたようですのに、児島さん自身は相談を持ちかける相手があまりいないと思っておいでだったのではないかと、思い返すにつけ胸が痛みます。さらに、外国語両部門が十分に風通しのよい職場ではなかったのかもしれない、という点も気がかりです。何でもオープンに言える職場、というのが日本にあるのか分かりませんが、せめてそういう方向をこれから目指したいと考えています。

七月の夏休み前に、児島さんの研究室前に置かれたお供え用の椅子に、お供えをして手を合わせていた方がおいででした。私の知らない方でした。ここにも児島さんが亡くなられたことを悼む方がおいでなのだと感じ入りました。お供え用の椅子は夏休み後まで置いてありました。そういう風に、児島さんのことを惜しむ人たちが大勢いる、ということは、ご本人には思いもよらないことだったかもしれません。

児島さんの穏やかなお顔を思い浮かべるときに悲しくなります。お忙しく働いた児島さんにまだ言うのかと言われそうですが、もっともっと長生きして活躍していただきたかったと思います。ご家族にとってはもちろんのこと、職場の者にとっても、大事な方でした。本当に残念でたまりません。ご冥福をお祈りいたします。